

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	3		・利用者のご様子や状況に応じて空いている部屋を利用している。 ・10名が同じ時間に来所されるとせまく感じる時もある為グループを分けたりしている。
	②	職員の配置数は適切である	6	3		急な職員のお休み時にはフォローを頂いている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所への設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9			
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもの活動に合わせた空間となっている。	9			
業務改善	⑤	業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	1		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			
	⑦	事業所向け自己評価表および、保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開している	9			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	1		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			・会議で研修を受ける機会を頂いている。 ・研修の内容を療育へつなげていき振り返りにもなっている。

適切な支援の提供

⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9			
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている。	9			
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	2		
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			<ul style="list-style-type: none"> ・自己判断が出来ない際などは相談をしながら立案している。 ・全員で行っている。
⑮	活動プログラムを固定化しないよう工夫している	9			
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			利用者の気持ちが高揚して落ち着かない際は静かな場所でクールダウンを行い個別療育を行っている。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			必ず朝礼時に行っている。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	9			必ず終礼時に行っている。
⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	9			保護者の意見を聞きモニタリングを作成している。

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1		職員間で情報を共有し協力して行っている。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連絡体制を整えている。	4	5		・保護者を通して情報共有を行っている ・現在医療ケアが必要な方が利用されていない。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関などと連絡体制を整えている	4	5		
	㉔	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			・移行支援シートや情報提供書を作成し行っている。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			・移行支援シートや情報提供書を作成し行っている。
	㉖	他の児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1		
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障がいのない子どもと活動する機会がある	6	3		
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	2		
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			・連絡帳や電話などで共有したり、定期的にモニタリングや面談時を通して共通理解を持っている。 ・送迎時やHug、メール等を通じて共通理解を行うようにしている。 ・送迎や会議の中で話を行っている。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	1		・困り感があられる保護者などにはアドバイスを行っている。

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び、支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			
	③④	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		必要な際は電話連絡や面談を行っている。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	4		・感染症対策の為にしばらく開催できていないが、今後開催したい。 ・昨年度進学に向けたここタイムを開催した。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			掃除に管理者へ報告し連絡を取る体制をとっている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2		
	③⑧	個人情報に十分注意している	9			不要な記録はすぐにシュレッダーで破棄している。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	1	感染症の影響で開催できていない。
	非常時の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのほか必要な訓練を行っている	9			定期的に訓練を行っている。
④③		事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9			
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1		職員間で共有し指示通りに従っている。
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			・毎日報告し共有している ・他事業所のヒヤリハットも常に共有している。
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			定期的に研修にて学んでいる。
④⑦		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、児童発達支援計画に記載している	9			